

P-087

米子、2017.7.20-21

胚培養士による個別相談（たまご相談室）を行って

堀金 聖羅 佐藤 学 中岡 義晴 森本 義晴

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 当院では IVF を実施した方、これから IVF を行う方に胚培養士から卵子、精子、胚に関する説明を直接受ける事ができる『たまご相談室』を週一回、無料で実施している。2014 年に相談を希望する患者の背景や質問内容、アンケートにより相談室の満足度の調査を行ったがこの度再調査を行ったので報告する。

【対象・方法】 2014 年 4 月から 2016 年 12 月までに来室した 118 人 (125 回) <後期>を前回報告分 2012 年 1 月から 2014 年 3 月の間に来室した 127 人(135 回)<前期>と比較した。なお期間中 43 人が複数回利用した。相談者には事前に質問事項を記入、提出して頂いた。相談は日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士資格取得者が行い、時間は 30 分間とした。終了後、アンケートに協力頂き、回収率は 94.4%であった。

【結果】 前後期の平均年齢に変化はなかった(39.0 歳 vs. 38.5 歳)。当院の平均採卵回数は 3.4 回 vs. 3.4 回、平均胚移植回数は 1.2 回 vs. 1.2 回で、背景に変化は認められなかった。多かった質問は順に胚のグレード、凍結胚(移植)、卵子であった。前期と比べ自身の胚の評価を気にする方が増加、凍結胚(移植)について、あるいは今後のアドバイスを求める傾向がみられた。96.6%が説明は分かりやすいと回答、説明に納得できた方は 97.5%で 4.6%増加した。

【考察】 2 年前の調査よりも説明による満足度は上がったことから、適切な回答が行えており、培養士の経験値の向上が背景にあると考えられる。治療が進むにつれ質問内容は細分化しており、個別背景を十分に理解することが重要だと感じられる。培養士は医師の説明を補足し、患者の不安や疑問を取り除く為に適切な情報提供ができるよう、データの収集、分析のほか知識向上が必要である。